

新たな歩み

不登校からひきこもりになり、必要最小限しか出かけなくなるようになって数か月が経ちました。初冬になると、新たな悩みが生まれてきます。

「俺は3年間で高校生活を終わることができるのだろうか」

私はいじめにより精神的につらくなり不登校、そしてひきこもりへとなっていました。3年間で高校生活を終わりたいと思っていました。これが一つの原動力となりサポート校、通信制高校のパンフレットを取り寄せるようになりました。ただ、気力があまり湧かないときが多かったため手元に来てからも封を開けるのは数日経ってから。様々なサポート校や通信制高校のパンフレットを一つずつ手にとり、どこがいいのか考え始めます。当時、複数の通信制高校に電話相談をしたのですが、現時点からだとも4年間行かないと卒業はできないと言われてきました。がっくりときていたときにX高校の先生から今から編入学すれば3年間で高校生活を終わられるということをお教えいただき、全日制の私立高校を退学して通信制のX高校に編入しました。今では通信制の高校が増えてきていますが、当時は通信制の高校に通うことにいい印象がないとき。それでも高校卒業まではしておきたいと思い、私にとっては大きな一歩を踏み出してみました。

通信制で送られてきた教科書と問題集をやればいいのでプレッシャーがなく取り組みましたが、やはり身体が重たいのは続いておりうつ伏せになりながら勉強をしていました。メンタル面の調子が悪い日が多く、特に寝たきり状態のときが多かったですが、月1のスクーリング授業で行った水族館や博物館などは気分転換になりましたし、当時の私にとってとても新鮮でした。普段から職員室に行って先生と話しをすることができる生徒に対して柔軟性の高い高校だったため、空虚感が強いときやリストカット、オーバードーズをやりそうにな

ったら高校に行って職員室にある面談用のいすに座って時を過ごしていました。こうして、次第に X 高校の先生や同級生と信頼関係を築いていきました。

時々、失敗してリストカットなどをしてしまうこともありました。X 高校の存在はとても大きかったです。何をしても受け容れてくれる。それが嬉しかった。自分が認められているような気がして。詳しい内容までは覚えていないのですが、私が嫌いな言葉のある先生が使ったときに、この先生と一緒に過ごすことが嫌だと思い怒って帰ることがありました。そしたら、校長先生が駅前まで走ってきてくれて私の今の気持ちをゆっくりと聴いてくれたことで私は心からこの先生を信頼できるようになり、嫌いな言葉を発した先生とも仲直りができてお互い伝えたいことを伝えあえる関係になった。ここまでくると私のことをちゃんとみてくれていると強く感じて X 高校の先生たちをより信頼するようになりました。この頃から不登校を脱したいと強く思うようになり、できるだけ学校に行くことに意識を向けるようになりました。身体が重いときは学校に行かないで寝たきりになるけど、学校に行けそうなときは教科書と問題集、回答用紙を持って行ったり、大学受験のことを考えて受験対策用の問題集を持って行って問題を解くことなどをしていました。

高校生活全体をみると、学校に行かない日の方が圧倒的に多かったですが、ターニングポイントとなったのは全日制にこだわることなく通信制の X 高校に編入したことで X 高校の先生の受け入れ態勢がとても整っていたところだと思います。通信制は不安だらけだったのですが、先生や同級生に恵まれて一つの居場所ができたことは私の精神面によい影響があったと思います。不登校の子どもには居場所が必要だと言われることが多いです。私は、家が安心できる居場所ではありませんでした。そんなとき、X 高校が安心できる居場所になってくれた。少しだけでも信頼できる人に会って話すことの大切さを感じました。家族、学校、友人のサポートがあり卒業に向けてカリキュラムをこなしていったのですが、この先の進路について悩みが生じるようになっていったのです。 つづく